

---

# 岐阜県立高山工業高等学校

学 校 長 浦 山 朋 征

学校住所 高山市千島町291番地 電話 0577-32-0418

---

1 会議の名称 令和元年度学校運営協議会による会議（第1回）

2 会議の構成 委 員

中野谷 康 司	高山市教育長
石 原 嘉 和	高山市立日枝中学校校長
桐 谷 一 夫	高山市立花里小学校校長
中 垣 満	本校育友会会長
平 野 洋 二	千島町町内会副会長
小屋垣内 浩之	学校評議員（小屋垣内農園（自営））
山 下 恵美子	学校評議員（山下提灯（自営））
横 谷 政 恵	学校評議員（理容こいど（理容師））
稲 野 千賀子	地区代表
岡 田 梅 代	地区代表

（順不同）

学校側	浦 山 朋 征	校長
	藤 守 学	教頭（司会）
	和 仁 崇 幸	事務長
	岩 島 義 則	教務主任
	上垣内 忠	生徒指導主事（記録）
	門 前 雅 人	進路指導部長
	川 上 登	工業部長

3 会議の目的 「岐阜県立における学校運営協議会の設置等に関する規則」に基づき、令和元年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和元年6月7日（金） 13:15～15:15 高山工業高等学校（会議室）  
委員10名と学校側7名が出席

5 会議の概要

（1）授業参観 2、3年生の課題研究、実習、授業を参観していただいた。

（2）学校長挨拶

①学校運営協議会委員の委嘱

②挨拶

(3) 委員自己紹介と授業参観のご感想・ご意見

- 委員 1 本校は高山市連携事業でも協力しており、地域に大いに貢献している。
- 委員 2 中学校時と比較し、生徒が成長している。本校は地域や産業を支える人材育成を担う学校として重要である。
- 委員 3 近隣の小学校であり、本校生徒は小学生にとって良いお兄さん、お姉さんである。
- 委員 4 初めて授業参観をしたが、立派な学校である。
- 委員 5 初めて授業参観をしたが、大人っぽく感じた。卒業後も地元に残って貢献してほしい。
- 委員 6 以前に比べて生徒がまじめで落ち着いている。実習は目的があって取り組む姿勢がよい。普通教科は生徒によって目的意識が違うと感じられた。
- 委員 7 地域の人に本校のよさをもっと知ってほしい。
- 委員 8 これまでに何回か来校しているが、新しい発見が毎回ある。
- 委員 9 地域の工業高校として優れている。
- 学校側 いただいた感想を職員に伝え、今後の授業改善に努めたい。

(4) 学校運営協議会の趣旨説明

教 頭：資料に基づいてコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について説明。

(5) 会長、副会長の選出

(6) 会長挨拶

(7) 本校の教育活動（現状と課題）について（学校から課題と重点の説明）

校 長：①教育指導の重点について

資料に基づいて教育方針と教育指導の重点について概要を説明。

②マニフェストについて

資料に基づいてマニフェストのポイントを説明。

③学校の組織体制について

資料に基づき、「働き方改革の取組」を踏まえて、説明。

教 務 主 任：カリキュラムの特徴について

飛驒の匠の技と心を継承し、飛驒地区の将来を担うエンジニアリーダーを育成するために地域や企業等と連携し、特色ある教育活動を行っている。

各分掌長より、「指導の重点と自己評価」の資料に基づいて説明。

教 務 部：全教員による授業公開を実施して授業改善に努めている。また、すべての生徒がわかる授業を推進しており、ユニバーサルデザインをとり入れた授業を実践している。さらに今年度はすべての普通教室にホワイトボードとプロジェクターが設置されるので ICT を取り入れた授業実践に向けて職員の研修を行う。

進路指導部：最初に、昨年度卒業生の進路希望状況や求人状況について説明した。新しい大学入試制

度に向けてポートフォリオの作成方法について検討している。また、進路意識向上のための進路ノートを活用している。

生徒指導部：昨年度の生徒指導関係の動向を報告。そうした現状を踏まえた本年度の重点目標と取組について説明。重点は、遅刻をできるだけさせない指導、特にネット・スマホの使用時に状況を判断し正しく行動できる自己指導力の育成、中でもコミュニケーション能力の育成について、昨年度から引き続き、力を入れている。

工業部 \* 「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」の資料も加えて、  
：『「つくる」「できる」を「いきる」につなげる』を目標に4つの学科が「魅力ある高山工業高校づくり」として、近年、あるいは今年度取り組んでいる事業について概要を説明。キーワードは「サテライトキャンパス」、「産業現場実習」、「知財教育」等で、地域の課題をものづくりを通じて主体的に解決する学習活動を進めている。

#### (8) 協議 「本校教育に対するご意見やご提言」

意見1 来年度より小学校にもプログラミングの授業が導入される。工業高校で学習するプログラムについての説明やセンサを活用する授業の仕方などについての職員研修にご協力いただきたい。

意見2 高山工業との連携や協力を精選し、小・中・高が共に発展する活動を推進したい。

意見3 中学生も素直でおとなしい傾向である。最近は女子生徒が活躍してくれる。

意見4 地域のコミュニティ意識が最近はうすれてきている。地域の高齢者に対しても積極的にあいさつしてもらい、接点をつくりたい。

意見5 授業をICT化することで、その準備に時間をとられて、仕事量が増えるのではないかと心配している。

意見6 提灯作りにおいて生徒と関わりがあったが、指示について素直に聞いてくれる反面、質問が出ない点は心配かつ不安であった。地域の伝統工芸の後継者が減少しているので、高山工業のこのような取り組みには期待している。

意見7 本校生徒は身だしなみもよく、高山市内では評判もよい。卒業作品展のポスター掲示等協力できることはしたい。

意見8 授業参観をして、楽しく学んで身に付けることの素晴らしさを認識した。高山工業生徒と小中学生との交流事業はお互いが成長できるので、このような機会を増やしてほしい。

意見9 便利な時代ではあるが、それが子どもたちにはマイナスになることもある。何が必要かしっかり指導して、自分の意見をしっかり伝えられるようにしてほしい。

#### 6 会議のまとめ

本日のご意見とともに今後の学校運営に生かしていく。

第2回は、11月中（期日未定）の開催を予定している。